

交流10周年を迎えて

平成14年10月18日に結ばれた川越市とオータン市(フランス・ブルゴーニュ州)との姉妹都市提携から10年。市では、10周年を記念し両市の市民交流をいっそう発展させるため、オータン市へ訪問団を派遣しました。川善善明川越市長、大泉一夫川越市議会副議長をはじめ、市議会議員、市民の総勢36人がオータン市を訪問。現地では、姉妹都市交流10周年記念式典が催され、レミールベロットオータン市長は「これまでの10年の交流を振り返り、これからの10年、さらに活発な交流を図れるよう目指す出発点としたい」と熱意を語ってくれました。

また、ホームビジットによる両市民の交流では、フランスの家庭文化を身近に体験しました。ホストファミリーのリチャードさん一家を訪ねた矢島清さん(仲町)は「片言



楽しいひとときをホストファミリーと過ごす矢島さん(写真右)

の英語と身ぶり手ぶりで何とか意思疎通ができ、楽しいひとときでした。言葉より心です」と、ますますオータン市が好きになったと話してくれました。



オータン市内のロラン美術館では、同市の古い歴史が感じられる品々を見学



新たな一歩に向け交わす、かたい握手



オータン市役所で行われた式典



ふおとニュース



馬場を駆け抜ける勇姿



11月16日、国指定史跡河越館跡で河越流鏝馬が行われました。河越氏が活躍していた鎌倉時代、武芸訓練のひとつとして行われていた流鏝馬は、疾走する馬の上から、的めがけて矢を放ちます。

見事に的が射抜かれるたび、どよめきと拍手が澄んだ秋空に響き渡りました。流鏝馬を見るのを楽しみにしていたという小学1年生の中野順太くん(的場)は、「目の前を駆けていく馬は思ったより速くて、とても迫力があつた」と笑顔で話してくれました。

安全とは、怖さを知ること

11月21日、名細中学校で行われた交通安全教室。スタントマンが実演する仮想事故をじかに目撃する、スケアード・ストレイト教育技法という方法で行われました。これは、実際に“怖さ”を体感することで安全意識を高めることが目的です。初めは面白がって見ていた生徒たちも、「もし、自分だったら…」と事故の恐怖を実感し始めました。

「実際に見ると衝撃的でした。安全確認したつもりでも出来ていないことがあるので、もしかしたら車が来るかもしれないという気持ちをいつも持とうと思います」と話す駒田津麦さん(中学2年生)の表情は、真剣そのものでした。



一時停止を無視して交差点に進入した自転車に車が衝突。自転車に乗っていた人は、車のフロントガラスに叩きつけられました